

### 第3回 栗原市総合計画審議会 会議録

日 時 令和3年1月28日(木) 午後1時30分～午後3時10分

場 所 栗原市役所本庁舎 4階 委員会室

出席者 委員18名

鈴木康夫会長、千葉節朗副会長、中田千彦委員、吉田浩委員、鈴木康則委員、磯学委員、阿部智恵委員、佐々木寿美子委員、菅原博之委員、高橋郁夫委員、松平きらら委員、渡邊登委員、佐藤浩喜委員、菅原文彦委員、菅原充委員、武田夏子委員(オンライン参加)、菅原幸治委員、三浦和栄委員

(事務局)

伊藤企画部長、鈴木企画部次長、佐藤企画課長、菅原企画課長補佐、菅原企画政策係長、眞山主査

#### 1 開会

#### 2 挨拶

○栗原市総合計画審議会 鈴木康夫会長

後期基本計画を策定する上で非常に重要な部分として、市民が現在の市の取り組みや施策についてどのように感じているのか、施策の優先度は何なのか、ということをも市民アンケートとして伺うため、アンケートの内容について、前回、皆さんからご意見をいただき、実施したところである。

本日は、その結果である速報値が配布されており、後ほど事務局から報告がある。後半にはスケジュールが示され、第4回が3月となり、いよいよ次年度の夏には、総合計画審議会の実質的なところに入っていくこととなる。

総合計画策定のための態勢に入っていくこととなり、どのように栗原を住みよいまちにしていくかというところなど、ご意見を伺っていきたい。

コロナ禍で先行きが見えない中でも、社会は目まぐるしく変わっており、このような状況の中においてもしっかりと目標を立て、ビジョンを作って栗原の未来に繋げていくという、極めて重要な場であると感じているところである。

コロナ禍にあつての未来のありよう、限られた時間ではあるが、本日もよろしくお願ひしたい。

### 3 協議事項

- (1) 第2次栗原市総合計画後期基本計画策定に関する市民アンケート調査  
結果速報について  
(事務局説明)

(会長)

詳細な結果は、第4回審議会で出てくるかとは思いますが、60歳以上の回答が半分以上となっており、恐らく年代別でかなり違ってくると思われる。

この件について何かご質問・ご意見はないか。

(委員)

こうした調査としては、抜群と言っても良い内容ではないかと感じている。

市民の皆さんの関心の高さや地元意識の強さを感じた。

大きく分けて2つのことを申し上げたい。ひとつ目は、この結果で注目すべき点、ふたつ目はそれに関わる質問となる。

最初にネガティブなことは言いたくないが、9ページから11ページに前回調査との比較があり、ほぼすべての項目で満足度が下がり、この5年間で前に進むというよりは後退している。

この結果は、謙虚に市の健康診断結果として受け入れ、改善に力を入れることとして、私たちも提案をしていかなければならないと感じた。

個別の項目で注目したのは、29ページの満足度と優先度の図である。早急に力を入れなければならないものは、優先度が高いにも関わらず、満足度が低いものとなる。

図の左上、青色部分にある25番、26番、27番について、優先度が高いにも関わらず、満足度が平均以下というものであり、28ページで確認すると地域医療関係となっている。

それ以前のページを見ても、医療環境を心配している市民の気持ちが、このアンケート結果に出ていると感じる。

地域医療に関して、とても強い不安やニーズと結果のギャップが出ている。市内の様子として、何か地域医療に心配事項となるようなエピソードが、ここ数年間に起きていたのか伺いたい。

特にそういったことではないということであれば、ひとつの可能性として、アンケートした時期においては、新型コロナウイルス感染症の社会不安が高まり、入院できずに在宅医療で体調を壊してしまうのではないかという心配が多かったため、そういった社会不安が単ににじみ出たのかとも考える。

または、高齢者のサンプルが多く入っており、高齢者は医療を心配する傾向もあるため、単に属性的なものが原因にあるのかとも考える。

大きな病院の撤退があった等のエピソードがあるか否か、地域医療に関してこの数年間うちに大きな出来事があったか否か、お話しいただきたい。

(会長)

アンケート結果の解析中だとは思いますが、回答できる範囲でお願いしたい。

(事務局)

アンケート調査の回答期限が終了してからはあるが、現在、市内に3病院ある市立病院の経営計画見直しを進めており、そのスモール化について地域説明会を行っている。

アンケート調査終了後に説明会を行っているが、これが原因か事務局で把握することはできない。

それ以前の出来事としては、市内には診療所があり、鶯沢診療所や高清水診療所において、先生が高齢になり退職し、その後に補充ができなかったということがある。

そして現在は、栗原中央病院から医師を派遣して運営している状況がある。

次の医師が、次の人材がなかなか栗原市に来ていただけない、配置されないという状況があり、そういった心配はある。

もうひとつは産婦人科について、登米市では既に無くなり、栗原市内の産婦人科はひとつであるため、産婦人科が切望されている状況がある。

また、小児科も市内にひとつしかなく、募集はしているが小児科医は配置されない状況がある。

こういったことが、以前から医療に関して心配されていることであると認識している。

(委員)

アンケート調査の結果は、栗原市に定住する市民として、極めて市民の思いが反映されたアンケートであると感じた。

重点維持分野の部分について、11番「子どもの保健・医療・福祉の充実」では、今は大学生の息子がおり、実体験に基づくとし内在住中は大変お世話になった。栗原市の子どもに対する医療費助成は、大変助けられたという思いはある。

改善分野として、高齢者の部分かと思われるが、近隣住民や私の両親を含め病院に行った際に、必ず仙台、古川、一関などの病院に紹介状を書かれ、医療にかかる分野は市内で収まらないということが多々ある。

ひとつの体験談ではあるが、ある程度のレベルが上がると、どうしても市内の病院ではまかり通らない。

必ず紹介状を書かれて市外に行くため、このようなアンケートの結果になったのではないかと、切実に感じている。

人材の不足もあるかとは思いますが、医師等の確保が急務となってくる。

(会長)

次回、はっきりとした結果が出てくるわけであるが、どのように活用していくか、その時も極めて重要な会議になる。

この点については、はっきりしておきたいといった部分等について、ご意見等よろしくお願ひしたい。

5つの分野があり、委員の方々はそれぞれの分野の方がいらっしゃるため、それぞれの分野から見たご意見でも構わない。よろしくお願ひしたい。

(委員)

これが実際に栗原市の皆さんの割と最近の生活、生きていくことに対する考え、思いの輪郭だとすると、かなり生々しいものであると感じた。

先般のコロナの関係で、日本全国のみならず、世界中が医療、サービス業、学校、物流等で大きな問題提起をされている中で、そういったところに関わりのある産業等に従事されている方々の生活のあり方、地方でどう生きていくのかということの取り組み方といったことが、様々な分野、様々なレベルで議論され、それをどう改善するのか、ある意味では諦めるということも割と聞こえてくる話となってきた時に、本来はどこの地方でもある意味安穏と地方のあり方を享受していれば、生涯安泰ということはないのではないかと不安がある。

しかしながら、都市部のような高密度・高解像度のところでは様々な問題と違った要素が地方にはあり、関わりを持とうとしている自治体の中で、こういった声、思いというものをきちんと適切に拾って手を打っていくという、ある意味では好機だと思わざるを得ない。

それは、施策としてこういった計画がある中で、それをアップグレードするというタイミングが各自治体であるわけだが、その中できちんとその話題を拾うところは拾って対応していくということについて、かなり丁寧に、深刻に行っていかなければ、これからの10年20年で大きな溝が生まれてくるかもしれないし、その他の地域とのレベル差が出てくる可能性が高いと思う。

そういった意味では、非常に重要な話題であるとともに、今後の具体的な施策等で、かなり丁寧に、ち密な応答を課せられてくるということが明らかになっているのではないかと思っていた。

次回の会議で、更に詳細な状態把握をされた時に、次のステップでペーパーを作るだけではなく、具体的な落とし込み、緩急をどのようにつけるのかとい

う方針のようなものが、この会議の最終段階で聞こえてくると、それがまた市民の方にもきちんと伝わって行って、安心できるどころ、もう少し行政に対して声を上げていかなければならないところ、その辺の峻別もされてくると思われるので、ぜひそこは心がけたいと思っています。

(委員)

このアンケートを見ていて、前回に比べ、すべての項目で下がっているということ、また予算と将来の人口の予測等を踏まえてみても、人口は減っていき、ますます高齢化が進んでいき、それに伴い予算も削減され、という非常に暗い部分しか見えてこない。

では、その中で栗原市はどうすれば良いのかという話になってくる。

こういう悩みは、栗原市に限らず地方の市町村では多くあるのだろうと考えるが、逆に今のコロナ禍で大きな転換をするチャンスの時期ではないかと、そういった見方、方向性を持って対応するということは必要なのではないだろうか。

例えば、5Gの運用が始まりAIが急激に発達して、遠隔で手術ができるようになるということも、実は近い将来に実現するだろうという話もある。

医療分野において、医者は来ていただける方がほとんどおらず、へき地に、特に高名なお医者さんは、なかなかきていただけない。

そのような状況にあるのであれば、そういった方々とのパイプを繋ぎ、情報通信網が発達した状態を使って提携することによって、ある程度の遠隔での診療等を考えてみる。

または、栗原の良さをアピールし、こちらでテレワークができるような整備をする。

もうひとつの例として、教育面というものも大きいかと思うが、進学を目指すのであれば、大手の学習塾と連携し、こちらも遠隔で高度な学習や進路指導、いろいろな企業の方からの企業教育を受ける等、実際に集まって行うというより、そういったものを使うという方向を持てば、今、栗原や地方都市が不便とされていることが、逆にプラスになる可能性も出てくるのではないかとも思う。

ただし、それを行うためには非常に多岐に渡り、お金もかかるだろうと考える。

そのため、どこか1つ、例えば医療の分野または教育の分野でも良いので、どこか1つで具体的・象徴的な事柄を大きく打ち上げることによって、まちのひとつの活性化、枝葉が伸びていくようなことを考えることが、今、必要なのではないかと思う。

今まで通りの行政の感覚ではなく、新しくこの時期だから行える、または変

換して行ってみるといふ部分がほしい。

具体的なものはあるわけではないが、そういう思っているため、このような話をした。

(会長)

変化する環境だからこそ、そこが未来の栗原の決め手になる。あるべき姿、そういった所を活用して、そういった視点を持って作ってほしいということだと思ふ。

(委員)

今の委員のご指摘は、4ページ問10「転出したい理由は」ということを解決するために、多くのヒントとなるのではないかと思ふ。

「保健・医療環境に不安を感じる」が39.7%とトップとなっており、その他にも「日常の公共交通の利便性が悪い」「買い物が不便」「働く場がない」ということを、AIによる自動運転を用いた市内循環バス、あるいは働く場がないということ为解决するリモートワークなど、ここを解決するために大変ヒントがあるご指摘であったと思ふ。ぜひ、留めて活用してほしい。

(委員)

問10「行政サービスが不足している」というところは19.2%あるが、結局のところ、市の行政がぱっとしないという指摘なのかもしれない。

これを最初に考えてみなければいけないのではないかと、私なりに思った次第である。

(会長)

この審議会は、こういった意見が極めて重要であり、どのように施策に反映するかという、これがなければこの審議会の意味がないのかなと思ふ。

そこは極めて重要になる。この視点を入れながら、ぜひお願いしたいと思ふ。

(委員)

このアンケートの速報値の資料が出てきて、資料1-2で予算の分配が出てきているが、必ずしも重点的に行おうとする項目が、令和2年度の予算で高くついているわけではない。

予算であるため、お金のかかるものとかからないもの、一概に金額だけではかれないが、重要と思ふようなところはもう少し具体的にしなければ、予算を見ても具体策が見えてこない。

問題点は把握したが、それにどう対応していくのかということが、予算を見

でもよくわからないということがひとつある。

その辺はもう少し市で頑張ってもらいたいという思いはあるが、市だけで頑張ってもしょうがない。

間もなく、2か月後くらいに、いろいろな車が走って、人の名前を連呼する賑やかな時期になる。スケジュールの資料にいろいろ書いてあるが、こういった速報値は、立候補予定者に資料として渡すものなのか。

渡すのであれば、このアンケート調査は市民が望んでいることであるため、それをどのように議会あるいは市に届けるかということが、立候補予定者から議員になった方の仕事ではないだろうか。

こういった資料は、そういった立候補予定者の内、希望する方だけでも配布して、今後の施策としてよく考えていただければ、市の方向性等について市長、議員、市役所が一貫となり、もう少し円滑に動くのではないかと思う。

## (2) 今後のスケジュール等について (事務局説明)

(会長)

この件について何かご質問・ご意見はないか。

(委員)

資料2-5「事前に備えるべき目標」について、1～8までであるが、基本的には自然災害に対するものかと思う。

これは自然災害に特化した国土強靱化の枠組みについての資料ということになるのか。

(事務局)

そのとおりである。

(委員)

あまり最近の話題に飛びつくわけではないが、こういったリスクベッジの観点で言えば、感染症対策ということも当然この時期だからこそ、次のステージには捉えられていると思うため、その辺りはどのように捉えているのか、またアイデアがあれば教えていただきたい。

(事務局)

以前は東日本大震災があり、総合計画の大きな大綱の中にひとつ、放射能対策というものを、その時点で新たに追加した。

東日本大震災を受けて、新たな対策として総合計画の中には位置づけられないため、別枠としたかたちで出していた。

今回もこの計画を進める上で、こうした新型コロナウイルス感染症が、別枠で設定した方が良いのか、今の総合計画事業の中で、例えば集会所や様々な場所での感染対策や避難所の運営など、総合計画の中にも含めたかたちで構わないということであれば、そのような方向性として皆様方の意見を伺い、特別枠として明示した方が、より市民の方々が理解しやすいだろうという意見がまとまれば、そのようなかたちでも考えていきたいと思っているため、改めてその場でお伺いしていきたいと考えている。

(委員)

福島原発の件は、昔であればそのようなことは想定もしなかった件が、あのような事態が不意に発生し、それをカバーしなければいけなくなることが起きている。

新型コロナウイルス感染症についても、今は忘却していた話題が不意に必然的に起こってきているもので、その位置づけというものに対して、特に行政がどのように取り組むのかということのメッセージの発信の仕方は、非常に大事だと思っている。

これは、人が移動することで拡大する大変やっかいなことであり、この移動には県境も営業時間も関係ないため、ここでどのように市が市民を守るのか、財産を守るのかということに対するビジョンが、何かしらのかたちで組み込まれるという時代であり、ぜひその辺りは適切に話題として取り上げていただくのが良いと思う。

もうひとつ質問として、まちづくり若者ワークショップの開催は、全体の中でどのような位置づけと意味が与えられているのか、教えていただきたい。

(事務局)

これまでもアンケートの結果等から、どうしても高齢者の割合、ご高齢の方からの意見が割合的に多くなるという傾向があった。

若者ワークショップは、そうしたものを補完していくという意味も含めて、高校生から意見を伺うものである。

現在、県内の各公立高校でも総合的な学習の時間を活用して、まちづくり等に対する自分達なりの研究をし、例えばこういったものに取り組みれば良いのではないかということに、各校で取り組まれている。

そうした取り組みで、市もいろいろと協力をさせていただいているところであり、その取り組みも踏まえ将来を担う若者の意見として、アイデアも含めて拾い上げ、計画に反映していければと考え、開催するものである。

(会長)

他にご質問・ご意見はないか。

(委員)

東日本大震災から10年になる。私は震災当時、志津川に勤めており、実際に震災を経験した。

志津川は、50年前にチリ地震というものがあり、被害を受けたため、震災が発生する2011年の前の年、2010年に地震や防災の専門の先生をお招きして、チリ地震津波から50年として講演会を行うなど、かなり備えていた。

その時に、近い将来宮城県沖で大きな地震が発生する可能性があり、最大6メートルの津波が来る可能性があるという話を受け、それに基づいてハザードマップを作り、避難所を設定し、その拠点として防災対策庁舎があった。

今は震災の象徴的な遺構として残っているが、あそこでの防災対応としており、6メートルの想定であったため、3階以降には津波は届かないという見込みであったが、実際は、場所によっては20メートル近くにまで及んだところもあった。

避難所も、実は海拔10メートル程度のところにかなり設定されていたこともあり、被害が増えたとは言えないだろうが、そういったことがあった。

震災後に「想定外」と随分言われたが、私は納得できないところがあった。

想定した基準によって、設定された避難所が水没して多くの方が亡くなったという事実が良くなく、逆に、それがなければ助かったかもしれないという思いを持っていた時期もあった。

そういったことも含めて、こういった防災に関しては、できるだけオーバーに、できるだけ大袈裟に想定していただければありがたいと思っている。

その辺も含めて、計画段階でよろしくをお願いしたい。

(会長)

以上で協議は終了する。

#### 4 その他

(事務局)

次回、第4回の開催については、本年3月上旬頃に委員の皆様方に日程を確認させていただいた上で、開催日を決定させていただきたいと考えている。

次回審議会の協議内容については、先ほど協議事項の中でご説明申し上げた市民アンケートの確定報告、若者ワークショップでの意見報告、前期計画及び総合戦略についての検証等についての案件を予定している。

## 5 挨拶

(千葉節朗副会長)

このようなアンケート結果で、静かに沈んだ委員会ではありましたが、委員の皆様のご意見を伺いながら、実りのある審議会となったと感じている。

## 6 閉会（午後3時10分）